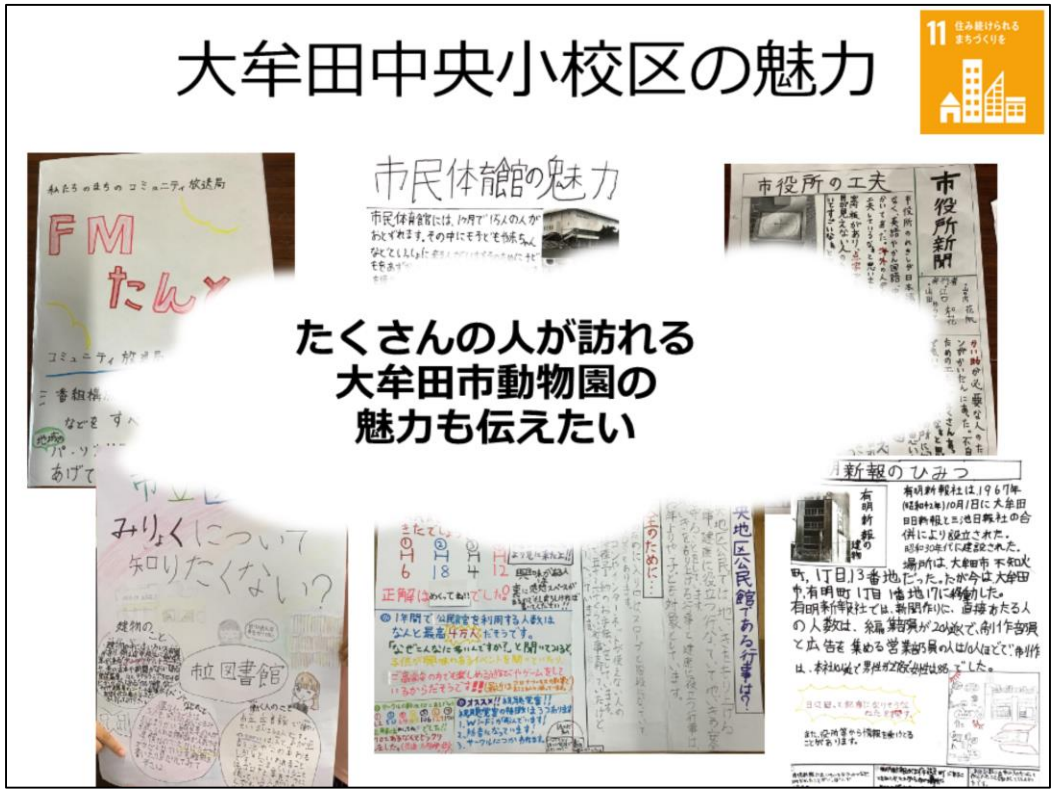
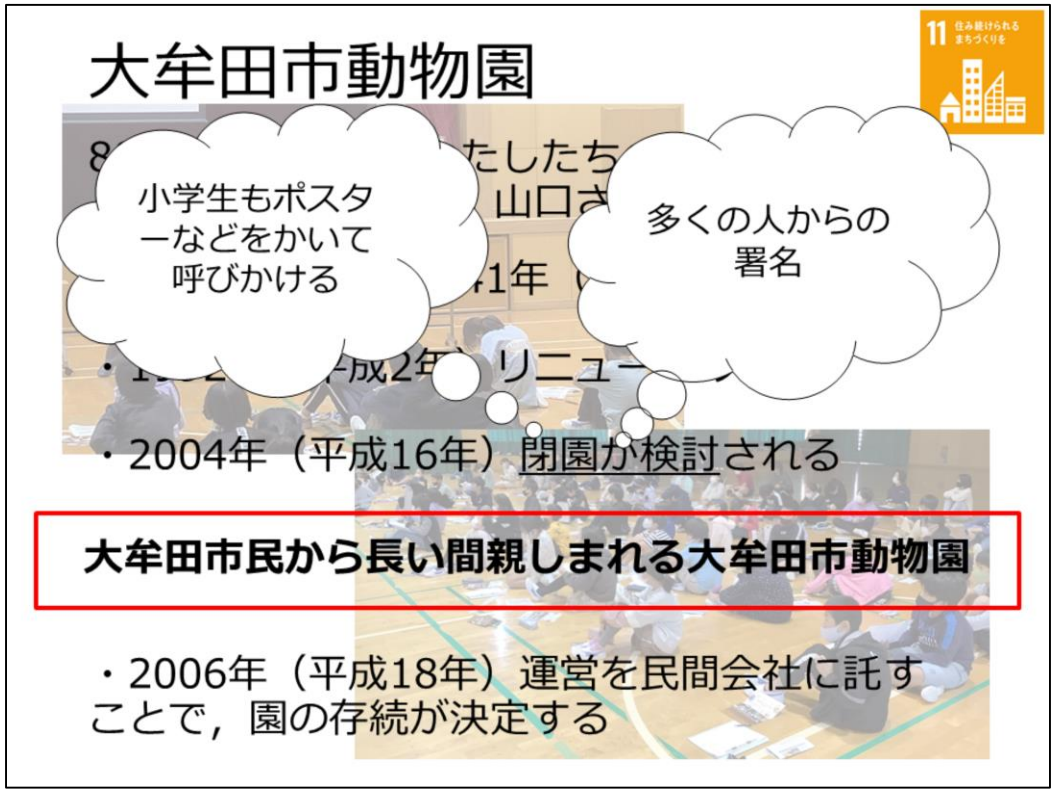
見つけよう 広げよう
わたしたちのまちの宝

大牟田中央小学校　５年生

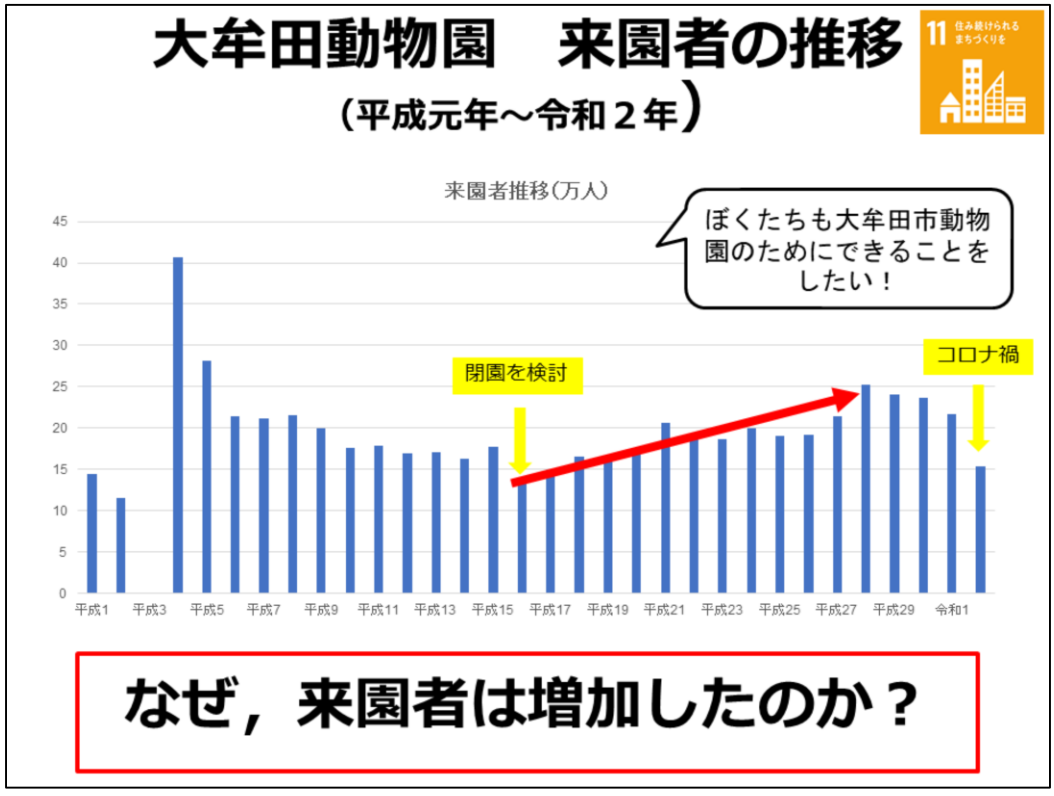


- みなさん、こんにちは！私たちは、大牟田中央小学校の５年生です。

- 　大牟田中央小校区には、市立図書館、大牟田市動物園、市役所など、「まちの宝」と呼べるような私たちのくらしを支える施設がたくさんあります。どの施設でもとても素晴らしい魅力を見つけることができました。
その中でも、今年８０周年を迎えた，小さいころから大好きな大牟田市動物園について、詳しく調べてみたいと思い、「見つけよう　広げよう　わたしたちの町の宝　～動物園編～」に初挑戦しました。わたしたちの挑戦を、（全員）ぜひお聞きください！

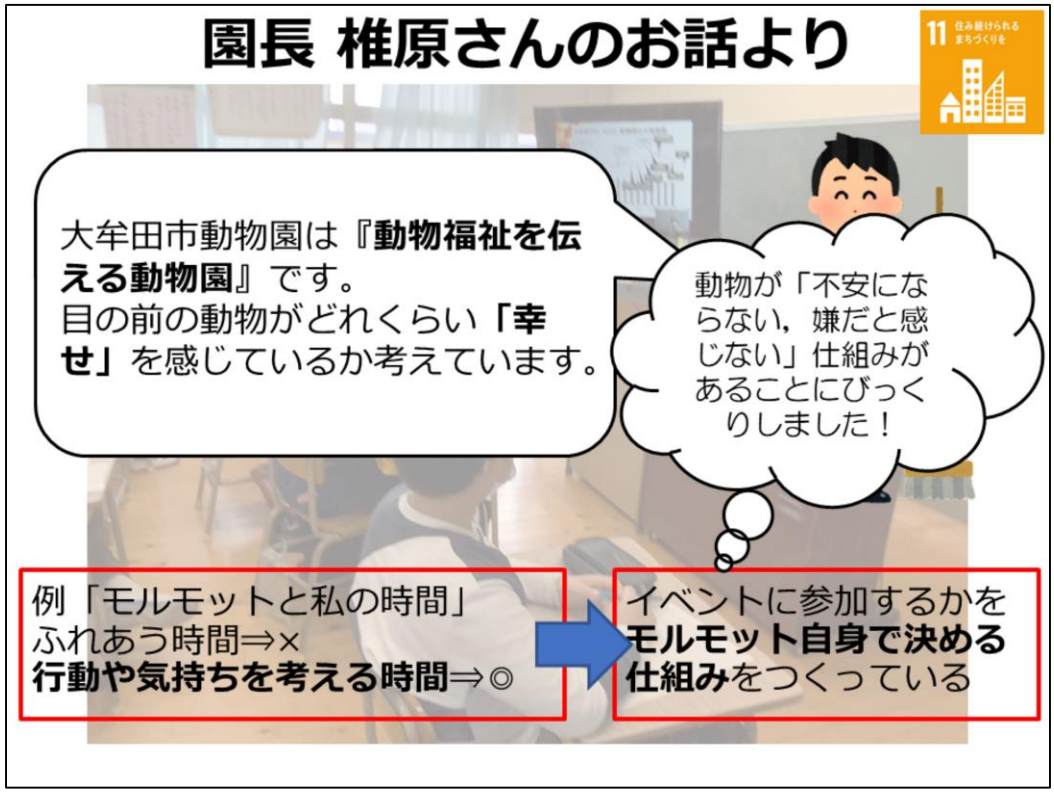


- 私たちはまず、大牟田市動物園の歴史を知るために、観光おもてなし課の山口さんからお話を聞きました。
- そこで、80年続く歴史の中で、大牟田市動物園は来園者が減ったことから、２００４年には、大牟田市動物園を閉園する考えが出されたことがあることを知りました。
- その時には、私たちと同じ小学生が、ポスターを描いて閉園してほしくないことを呼びかけるなど、多くの市民の声から、閉園をのりこえたそうです。
- このお話を聞いて、大牟田市動物園は、長い間市民に親しまれている動物園なのだなと思いました。



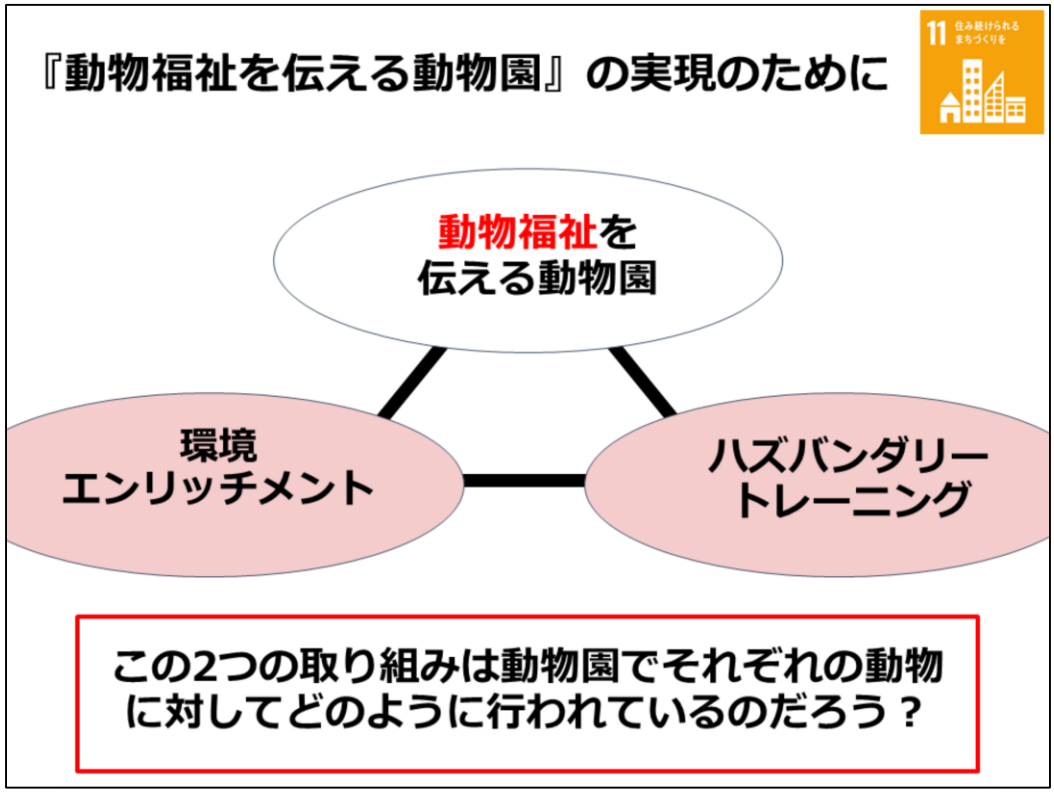
- 　このグラフを見てください。存続が決まってからは、より多くの人が大牟田市動物園を訪れていることが分かります。だけど現在は、コロナ禍のために、来園者数が減っている状況です。そこで、これから先も、大牟田市動物園がずっと続いていくように「私たちにもできることをしたい！」と考えました。

- そのためにまずは、なぜ来園者が増えたのか、そのひみつを探る為に、大牟田市動物園の園長、椎原さんにお話を聞きました。

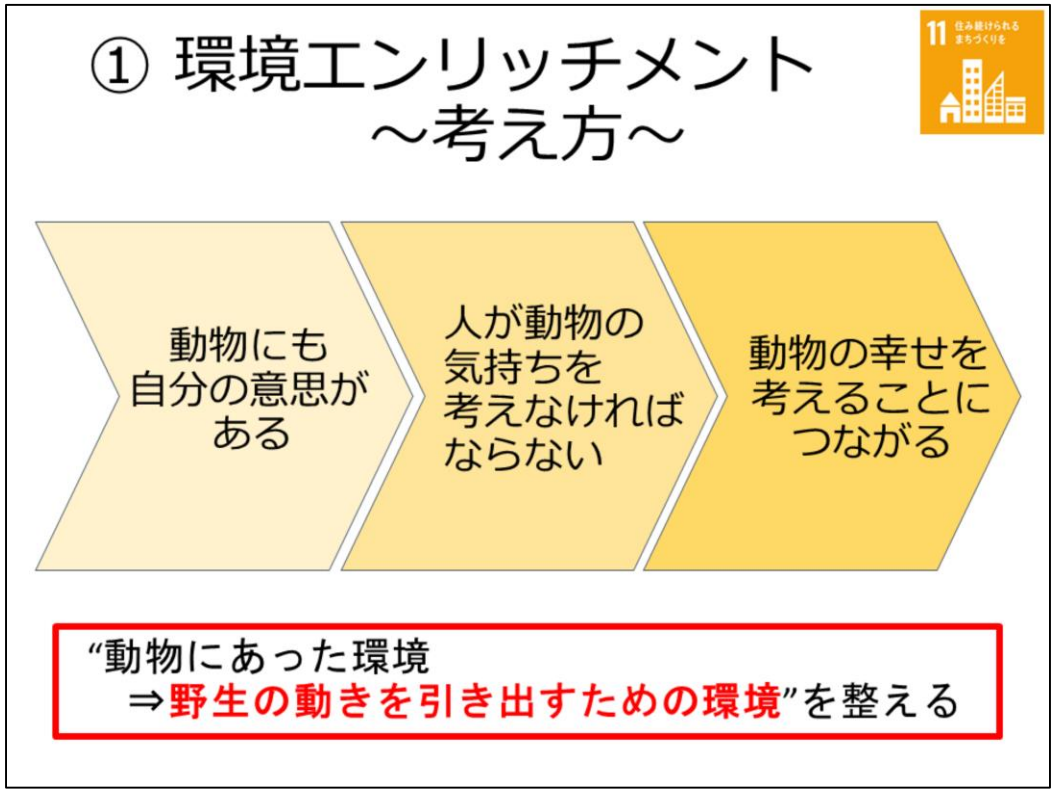


- 大牟田市動物園は、「動物福祉」を大切にしていることを知りました。「動物福祉」とは、目の前にいる動物が「幸せ」を感じているかを考えることです。動物も人間と同じように気持ちのある生き物なので、動物の気持ちをしっかり考えた飼育の仕方をしているそうです。

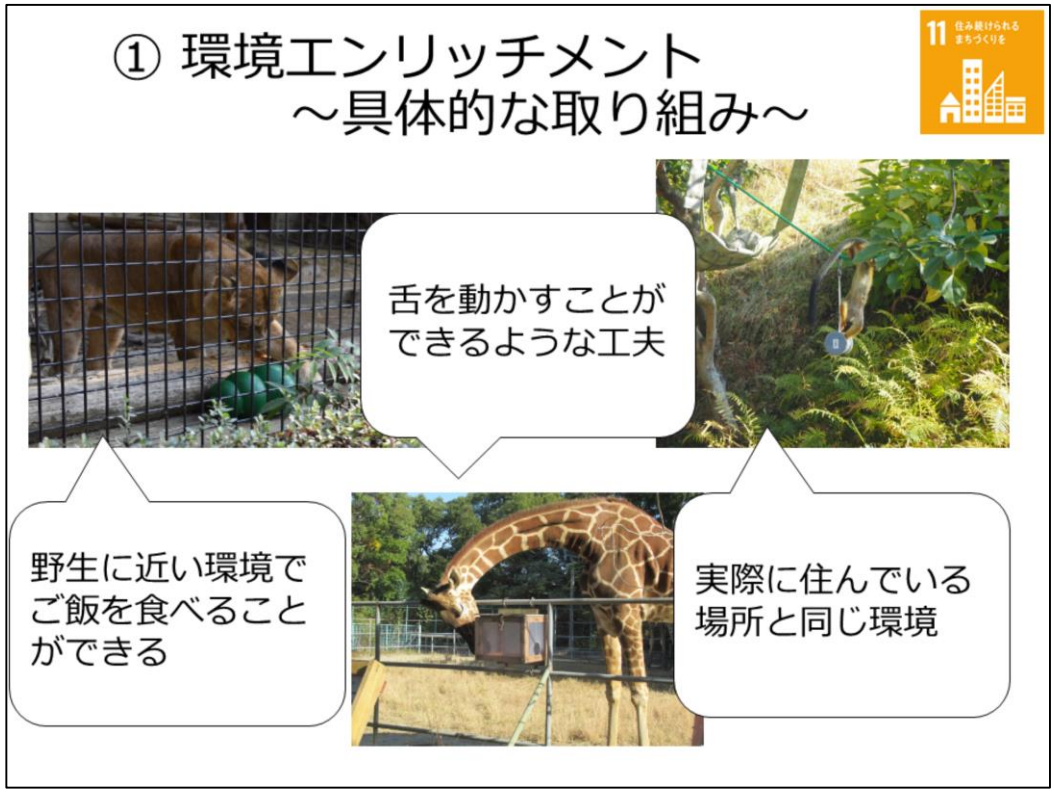
- 例えば、「モルモットと私の時間」というイベントでは、モルモット自身がイベントに参加するかを決める仕組みをつくっています。 椎原さんのお話を聞いて、「動物が不安にならない、いやにならない仕組みがあることがすごい！」と思いました。



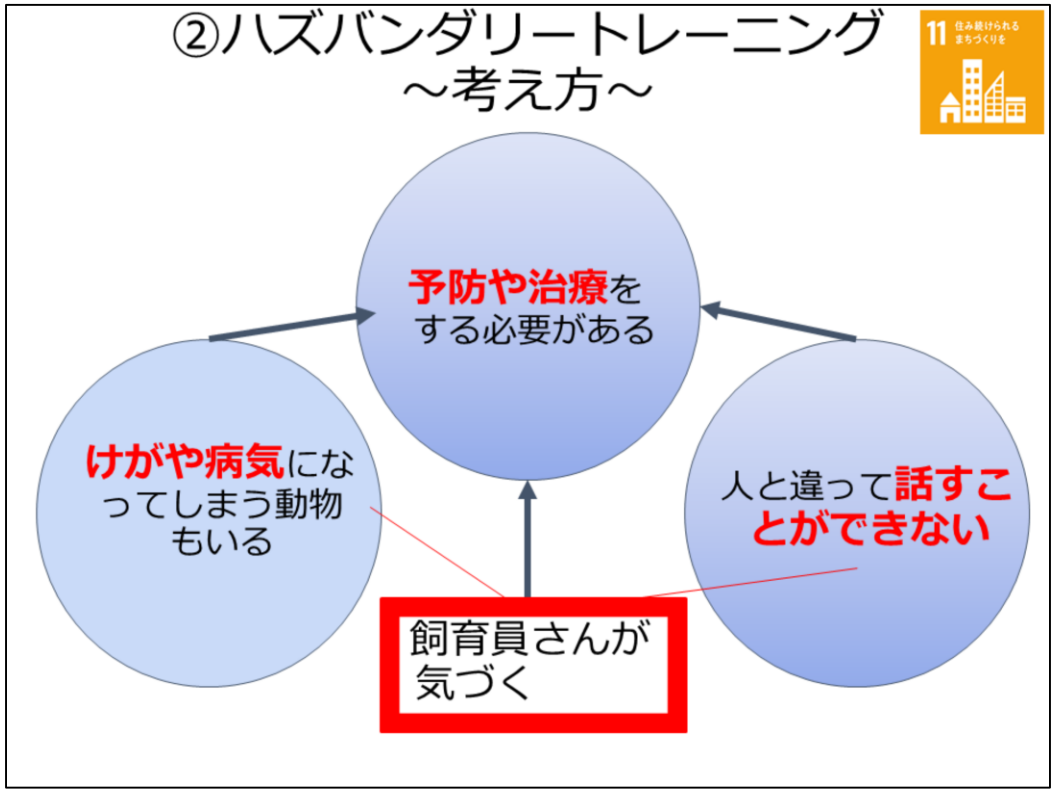
そして、大牟田市動物園の動物福祉は、「環境エンリッチメント」と「ハズバンダリートレーニング」の2つの取り組みを柱にしていることも知りました。動物福祉を大切にした大牟田市動物園では、この２つの取組をどのように行っているのだろうと、わたしたちは考え、次は直接動物園に行って見学することにしました。



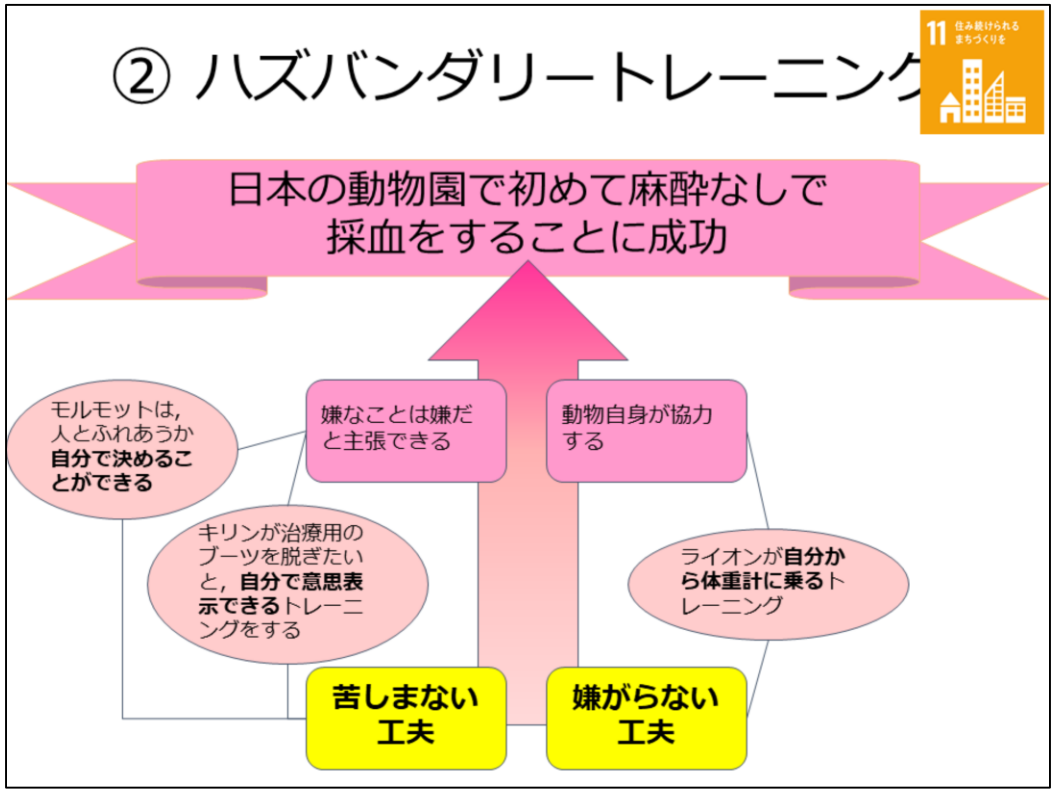
まず、動物福祉を支える１つ目の考えである環境エンリッチメントとは、動物の気持ちを想像することから始まります。次に、その動物が野生の動きを引き出すための環境を整える、また動物たちの暮らしをより良くする工夫を考えます。見学に行くと、野生の行動を引き出すための工夫がたくさん見つかりました。



- 　例えば、ライオンの「肉探し」を見たことがある人も多いのではないでしょうか。
- これは、狩りをして暮らす野生のライオンと同じ動きを引き出せるように、土の中や高いところなど、すぐには見つからないところに飼育員さんが肉を隠します。それらをライオン自身が探し出して食べることで、運動不足の解消や野生の習性を衰えさせないようにしています。
- 他にも、キリンのごはんは、小さな穴があいた食べにくい容器に入っています。この容器は飼育員さんの手作りで、野生と同じように長い舌を使いながらごはんを食べるようにするためです。キリンの大好物のアカシアの木のトゲトゲを再現した容器もあるんですよ。いろいろな形の容器があるので、探してみてくださいね。
- そしてリスザルは、カピバラとナマケモノと一緒に生活をしています。この3種類の動物は、どれも南米に住んでいる動物であるため、動物園でも同じ場所で飼育することで、実際に南米に住んでいる時と同じような環境で育てる事ができます。このように、動物園にいても、野生と同じ行動を引き出すような工夫がたくさんあります。



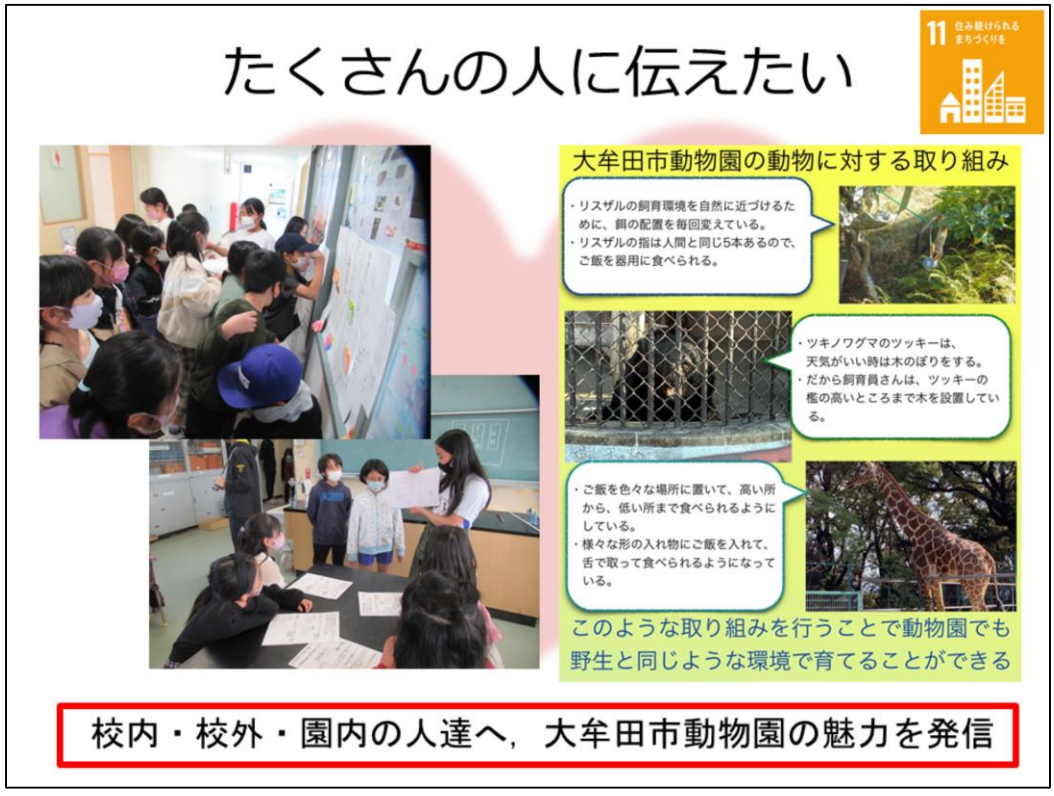
次に，動物福祉を支える2つ目の考え方が、ハズバンダリートレーニングです。動物は人と違い、話すことができません。更にけがや病気してしまう動物もいます。その中で飼育員さんは、動物の異常を見つけ出し治療や予防をする必要があります。異常をいち早く見つけ出すために、動物に協力してもらいながら健康管理をしています。



- 例えば、動物が自分から体重計に乗るトレーニングをして、少しずつ慣れてもらうことで、動物自身が苦しまずに自分の健康管理に協力できるようになります。
  キリンは、足が冷えないようにブーツを履いています。このブーツを脱ぎたい時には、脱ぎたいと意思表示できるようトレーニングをします。これらの取り組みにより、嫌なことは嫌というのを主張できるのです。
  このように、動物が嫌がらない工夫や苦しまない工夫をしたことにより、日本の動物園で初めて、麻酔なしで採血をすることができました。これは飼育員さんと動物との努力の結果だと思います。

- このように、動物の体のことを考え動物に協力してもらう工夫をしている飼育員さんは、すごいと思いました。

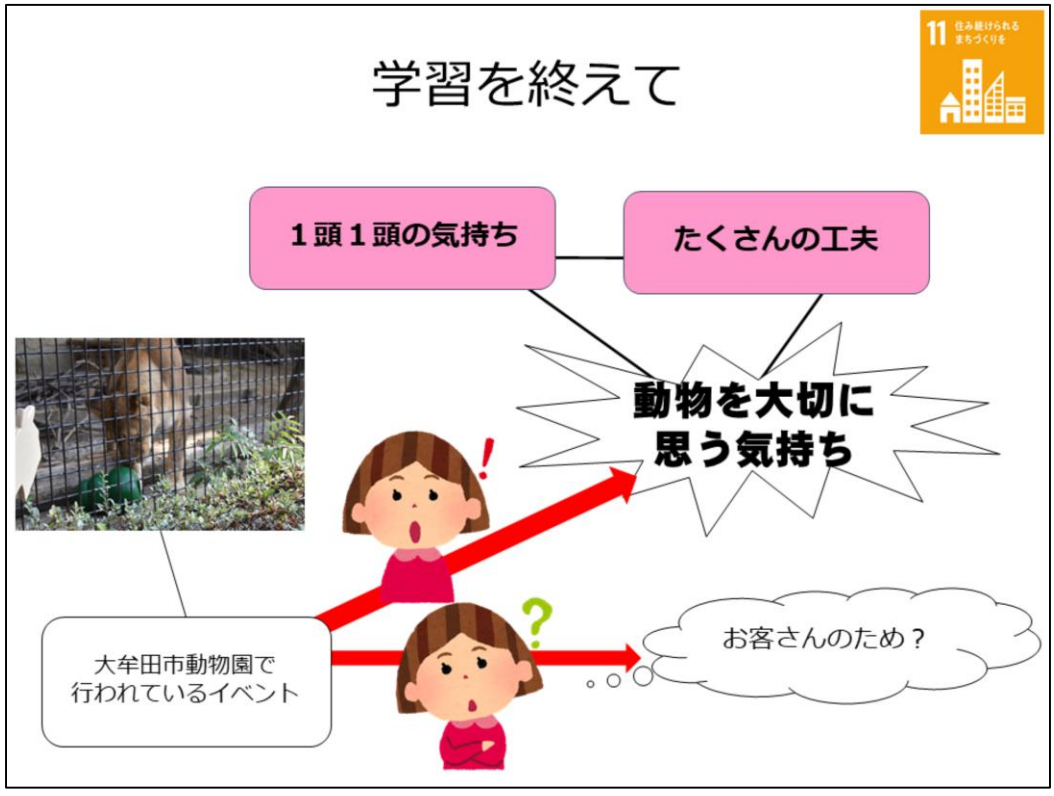
　見学をしてみて、大牟田市動物園は、少しでも野生の動物と同じ行動を引き出したり、動物に協力してもらいながら健康管理をしたりと動物１匹１匹を大切にした「動物福祉」が行われているなと思いました。そんな動物たちの心と体に寄り添っているところが、大牟田市動物園の魅力だと思いました。



- そこで、わたしたちは、この魅力を中央小のみんなや、動物園に来られた方々、地域の方々など、たくさんの人たちに伝えたいと考えました。具体的には、動画や新聞、チラシ、看板、俳句など、伝える相手によって、何にまとめたら良いかみんなで話し合いながら決めていきました。

- わたしたちがつくったものを見た人たちが「こんな魅力があるなんて知らなかった」「動物たちを大切にしたい」「動物園に行ってみたい」という気持ちになってほしいと思いながら、動物福祉の取り組みや、そのための飼育員さんの工夫についてまとめました。

- 中央小のみんなに発信した時は、たくさんの下級生たちが熱心に僕たちの話を聞いてくれました。「動物福祉のことを初めて知った。」「動物園に行ってみたくなった」と言ってくれて、僕たちの思いが届いたかと思うととても嬉しかったです。



- この学習を通して、「ライオンの肉探し」などのイベントは、お客さんを楽しませるものだと思っていたけれど、動物のことを大切に思ってしていることだということが心にのこりました。飼育員さんたちは、1頭1頭の気持ちを大切にして、たくさんの工夫をしていることがすごいと思いました。僕も飼育員さんのように、動物の気持ちを考えられるようになりたいです。

- 私は、前は動物が見えないところにいると、「もっと見たいのに」という気持ちになっていたけれど、この学習を通して、今だったら、「動物たちは自由に過ごせていいな」と思えます。動物福祉を知ると、動物の見方が変わることを実感したので、これからもたくさんの人たちに魅力を伝えていきたいです。

- 大牟田市動物園は、わたしたちの町の宝です。動物園がこれからもずっと続いていくように、動物福祉を大切にしていること、そしてそれを支える飼育員さんの思いを、これからもたくさんの人に伝えていきます！！

- （全員）「見つけよう　広げよう　わたしたちのまちの宝」

- みなさんもぜひ、大牟田市動物園に行ってみてください！ありがとうございました。

- （全員）ありがとうございました。